

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第67号

[2014年10月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第67号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## <目次>

平成26年度 活動報告会開催のお知らせ

グローバルフェスタ参加報告

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (27)

編集後記

次号の予定



## 平成26年度 活動報告会開催のお知らせ

平成26年度 活動報告会を下記の要領により開催いたします。

賛助会員以外の方にも公開しておりますので、お知り合いの方も是非お誘い合わせの上ご参加ください。

記

1. 日時 **平成26年11月2日(日) 17:30~19:30**

2. 場所 独立行政法人 国立国際医療研究センター 3-A (国際医療協力研修センター3階 会議室1・2)

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1

<交通アクセス>

- ・地下鉄都営大江戸線「若松河田駅」駅下車徒歩5分
- ・地下鉄東西線「早稲田」駅下車徒歩15分
- ・地下鉄副都心都線「東新宿」駅下車徒歩14分
- ・都営バス宿74系統 新宿駅から医療センター経由女子医大行き 国立国際医療研究センター前下車
- ・橋63系統 大久保・新大久保から新橋行き 国立国際医療研究センター前下車
- ・橋63系統 市ヶ谷・新橋から小滝橋車庫行き 国立国際医療研究センター前下車
- ・飯62系統 都営飯田橋駅前(C1・C3出口)から小滝橋車庫(牛込柳町駅経由)国立国際医療研究センター前下車

※参加者用の駐車場のご用意はありません。公共交通機関のご利用をお願い致します。

<地図>

<https://www.google.com/maps/ms?msa=0&msid=209611710943070036674.0004f465647d60c2a5e04&ie=UTF8&t=m&ll=35.702683,139.719315&spn=0.016728,0.024848&z=15&source=embed&dg=feature>



### 3. 内容

\*年次活動報告

\*現地活動報告

①「地域保健活動とミャンマー移民(仮)」



2012年より現地派遣員としてメータオ・クリニックで活動してきた田畑看護師が8月をもちまして活動を終了しました。2年間にわたる田畑看護師の活動をご報告するとともに、地域保健活動を通じて見つめてきたミャンマー移民の現状をお伝えします。

## ②「スタディーツアーから考えるミャンマー移民・難民の現状と課題」

JAM発足以降、毎年恒例となったJAMスタディーツアー。今年も全国各地から11名の参加者がタイ・ミャンマー国境を訪れました。6日間のツアーではメータオ・クリニック、移民学校、難民キャンプ、ゴミ山に暮らす人々、国境の橋を訪問。参加者の目に映ったミャンマー移民・難民の現状を通して、今後の課題、そして日本の支援のあり方を考えていきます。

4. 定員 先着40名

5. 参加費 **無料**

## 6. 申込み

参加ご希望の方は、(1)氏名 (2)住所 (3)所属 (4)電話番号 (5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス (6)賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。

メールタイトルは「活動報告会申込み」とご記入をお願いいたします。

support@japanmaetao.org (担当：前川)

皆様のご参加をお待ちしております。

## グローバルフェスタ参加報告

【東京＝神谷 友子】

去る10月4日(土)、5(日)に毎年恒例となっている、グローバルフェスタ JAPAN 2014に、今年もJAMとして出展させていただきました。

<http://www.gfjapan2014.jp/>



JAMの展示ブースでは、JAMの紹介ポスターでJAMの活動を紹介させていただいたり、難民画家 MAUNG MAUNG TINN 氏のカレンダー・ポストカード、メータオ・クリニックのTシャツなどの販売を行いました。売上金は、メータオクリニックでの活動に使用させていただきます。



普段お世話になっている方々や、スタディツアーに参加して下さった方、JAM スタッフの友人・知人、通りすがりに興味を持ってブースに寄って下さった方など、たくさんの方にお越しいただきました。ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。



残念ながら、台風接近のため2日目は半日でイベント自体が終了となり、午後に予定していた JAM の活動報告は中止となってしまいました。こちらは11月2日に予定しています国際保健医療学会内での JAM の活動報告会の中で改めて行う予定です。

このイベントは、国際協力に関心のある人が集まって来るので、本当にたくさんの知り合いの方に久しぶりに会うことができたり、新しい出会いがあったり、また普段各地にいる JAM のメンバーが集まる機会でもあり、私自身もとても楽しく参加させていただきました。また来年も参加したいと思います。



## メソトマンスリー

【メソト=鈴木 みどり】



## 最近のメーソット



皆様、こんにちは。

こちらメーソットでは先週の大雨のあとは、雨はほとんど降っていません。雨期が終わり、これから徐々に冬に向かいつつあり、昼間は暑いものの朝晩はとても涼しいです。

先月の土曜日、スタディツアーでも訪問した移民学校の HOPE 校をドイツ人の建築家の皆さんと訪問してきました。

HOPE 校では新校舎が必要と聞いていたので、以



前、JAMがお世話になった建設業者の方に相談したところ、知人の建築家の方々に相談して下さり、一緒に訪問することになったのです。

土曜日で子ども達は残っておらず、建築家の方々は実際に建てられる土地の面積を測ったり、周りの様子を観察したりしました。近くには大きな竹が生えていたり、雨の日は滑りやすいなど、障害になることも現場のプロの目で確認していました。

傾斜の大きい土地での作業になるので、資材の搬入には特に注意が必要です。作業する側はもちろんですが、周りで過ごす子ども達の安全にも大人の注意が必要だと思いました。

また、建築家のヤンは、6歳前後の子ども達が楽しく過ごせるように開放的な校舎にしたいと言ってくれました。すぐに設計に取り掛かれる、と意欲的でした。

学校の先生達もスタディツアーに引き続いての訪問で覚えていてくれました。栄養ドリンクの差し入れまであり、嬉しい訪問となりました。

HOPE校からの帰り道の途中で近くのKM42という移民学校にも立ち寄りしました。

こちらの学校にも開放的な校舎があり、土曜日のお昼過ぎにも自習をしたり遊んでいる子ども達が少し残っていました。同じ敷地内には竹で作った宿舎もありました。

校舎の裏手にはサッカーとバスケットボールのコートがありました。そこも今回一緒に訪問した建設業者のポールが作ったそうです。サッカー好きが作ったサッカー場で遊べるなんて子ども達も嬉しいと思います。



今回の訪問で、いよいよ校舎建設が近づいてきました。まだ先のことですが、無事に素敵な校舎ができてみんなが喜んで使ってくれますように祈ります。



## 国内から

【東京＝田辺 文】

JAM 日本事務局の田辺です。普段は都内の障害児病院にて整形外科医として勤務しています。今回はときどきお手伝いに伺っているユニークな診療所をご紹介します。



さくらクリニックは今年3月に高田馬場にオープンしました。高田馬場は東京のリトルヤンゴンとも呼ばれ、ミャンマー人の他、タイ、ネパールなど外国人が至るところで共生する街です。

さくらクリニックのコンセプトは、まず地域の人たちが相談しやすい診療所であること。整形外科が扱う運動器の問題は、健康で活動的な生活を送る上で避けては通れない分野です。一方で本人しか分からない痛みをどう説明すべきか悩み、多くの方が不安を抱えながら受診されます。その不安を少しでも減らし、相談しやすい診療所でありたいと努めています。

もうひとつは外国人が安心して受診できる診療所であること。そのため、ビルマ語、タイ語、チベット語、ネパール語、英語、スペイン語に対応できるスタッフを揃えています。私の診療日にはマ・テンテンさんというビルマ人難民の女性が上手な医療通訳をしてくださいます。外国人の方々に安心して受診していただくために越えなくてはならないハードルは語学だけではありません。さくらクリニックでは連日勉強会を開き、患者さん方の背景を知り、不安を取り除くような接し方ができるように、看護師や受付の職員も日々勉強に励んでいます。

H25年時点で外国人中長期在留者数は169万3,224人、特別永住者数は37万3,221人で、これらを合わせた在留外国人数は206万6,445人となり、全人口の約1.6%にのびります(法務省統計より)。これだけ多くの外国人が日本社会を担っているにも関わらず、日本の医療施設は、外国人の診療に決して協力的とは言えません。日本語を話せる通訳は、患者さん側が用意するのが当然で、保険に関する差別的な質問、自ずとかかかってしまう時間へのプレッシャー、専門用語が頻発することでの理解不足など、日本の医療機関で辛い経験をする外国人が少なくありません。このため、彼らのヘルスケアを受ける権利が守られていないのが現状です。さくらクリニック院長富田茂先生は、外国人が安心して受診できるクリニックを一施設の良心に終わらせないために、医療通訳をビジネスモデルに組み込むことや、保険診療として認められるよう社会的意義を訴えていくことも視野に入れ、実績を積んでいっています。

「外国人が多いと日本人は受診しにくいのではないか」そのような考え方も耳にします。しかし私はそうは思いません。外国人でも、障害者でも、マイノリティが安心して受診できる診療所は、マジョリティにも優しい場所だと思います。マイノリティに優しい社会が、住みやすい社会であると同様です。そんな発信が町の診療所からしていけると素晴らしいと思います。みなさんがお住まいの町にも、こんな素敵な診療所が増えていくことを願っています。

高田馬場さくらクリニック↓  
<http://sakuraclinic.info/>

## 国際保健医療協力のなかで (27)

【東京＝小林 潤】



台風19号が沖縄に接近している。中心の気圧は920ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は50メートル、最大瞬間風速は70メートル。昨年フィリピンを襲った台風ヨランダと同じぐらい、いや大きいかと報道されている。



私は、大学の講義がなくなる学生の夏休み期間を利用して毎年、海外出張を集中的におこなうが、今年はフィリピン・レイテ島予備調査で始め、数か国まわって、レイテ島本調査で終えた。台風が襲ったのは今年の11月だったが、8か月たった7月末の時点で現地のある高校の校庭は被災した人々のテントで埋め尽くされており、行き場のない人たちの現状と学校教育の正常な再開が難しいことを目のあたりにした。現地のコミュニティーリーダーと校長先生の話では「これからテントは徐々に撤収し8月末には完了する予定です」とのことで、安堵していた。

9月中旬再度、本調査のために訪問した。屋根が吹き飛んだ校舎の修復等は徐々にすすんでいたが、校庭は全く変わっておらずテントで埋め尽くされている。仮設住宅が絶対量足りない。タクロバン空港の改築、教会の修繕等は急ピッチで進み、復興は進んでいるように見える。すでに多くの国連機関やNGOも撤退始めた。しかし、何時ものことではあるが、貧困層の現実はあまり表にでてこない。このなかで我々は、調査を進める中で学校等から強い要望が確認されたことによって、学校での災害教育、災害準備・対応・復興のマニュアル作成を急ピッチで行っている。大規模な支援はできないが、ドナーが引き上げる中、自立支援を考えてのことでもある。

大規模災害から今、一年がたとうとしている。巨大台風がレイテ島を再度襲わないことを願うばかりである。災害経験は、災害対応を早くして対策を強化させるといわれている。確かにそうだろう。一回経験したほうが、適切な対応が進むだろう。しかし現地を訪れておどろいたことは、ここ20年で巨大台風だけでなく、大雨による土砂崩れ、洪水等で8回以上も災害に直面している。現地、市町村も相当な対応策を練っているし、各機関の連携も進んでいる。しかし、自然災害の規模は明らかに大きくなっている。この自然の猛威の前に人間はなすすべがなく、特に貧困層は逃げ惑うしかない。

デング熱も温暖化の影響ではないかと大騒ぎになっている。その日本では9月の時点で67例、死亡例はない。しかし世界では毎年5000万人から1億人が感染して200万人以上が死亡しており殆どの死亡例は子供達である。特に昨年2013年は、東南アジア各国でアウトブレイクが起きて緊急の対策が必要になっていた。

「なんでこんなになったんだろう。」「でもね、もう20年も前からいっていたよね、地球温暖化ってね。でもね、数年前から開発途上国では、減らない熱帯病や増える災害のために沢山の人が死んでいるんだよね。聞いていたんだけど、他人事だったんだよね。だから多くの人は生活をなにも変えずにいたよね。」

けっして政治家だけ、企業家だけでない。子供達は大きくなったらいうだろう。「先代達は、地球を皆でよってたかって壊してしまった。特に先進国の人だ。」映画の話ではない。現実の話。

## 編集後記

去年も今年もグローバルフェスタは、雨が降ってしまつてとても残念でした。しかも、今年は台風のため、途中で繰り上げ終了・・・

さて、来月は、活動報告会を開催します。今年は、新宿区にある国立国際医療研究センターでおこないます。現地での活動の様子などを皆様にわかりやすくお伝えできるよう準備を進めているところです。

賛助会員以外の方の参加も大歓迎ですのでぜひ、お誘いあわせの上、お越しください。皆様にお会いできることを楽しみにしております。



